



平成29年8月29日
海上保安庁

西之島の噴火について（8月11日及び24日観測）

8月11日及び8月24日、当庁羽田航空基地所属航空機(MA722及びMA725)により、西之島の火山活動の観測を行いました。

1. 火山活動の状況

・8月11日の状況

午後1時15分から午後1時40分までの約25分間の観測中に火砕丘中央の噴火口からの噴火は確認できませんでしたが、火口縁からの白色噴気を確認しました（図1参照）。

溶岩流が西岸から海に流入し、先端に白色蒸気と高温部を確認しました（図2参照）。

・8月24日の状況

午後1時30分から午後2時8分までの約40分間の観測中に火砕丘中央の噴火口からの噴火は確認できませんでしたが、火口縁から白色噴気が高さ約10m上がるのを確認しました（図3, 4参照）。

溶岩流先端には高温部は認められず、白色蒸気も発生していなかったことから、溶岩流の海への流入は止まったものと考えられます（図5参照）。

8月24日に同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、

「4月以後の噴火によるマグマの供給は停止し、微弱な熱源を残すのみになっていると考えられる。しかしながら、火道（マグマの通り道）が確立されているため、マグマの上昇が再度起きた場合には短時間で噴火に至ると考えられる。今後も注意深く監視していく必要がある。」

とのコメントが得られました。

2. 4月20日の新たな噴火以降に形成された陸地の状況

6月に発行した西之島の海図記載の海岸線（平成28年12月測量）に対して、溶岩流が島の西側と南西側の2カ所で海上に張り出し、それぞれ西へ約380m、南西へ約310m拡大していました（図6参照）。

火山活動が続いていますので、海上保安庁では引き続き航行警報により付近航行船舶に注意を呼びかけています。

<参考>

○8月24日時点での西之島の形状（暫定値）

- ・東西：約2,200m（6月29日時点約2,100m）
- ・南北：約1,900m（6月29日時点約1,900m）
- ・面積：約3.0平方km（6月29日時点約2.9平方km）



図1 火口縁から放出される白色噴気（8月11日撮影）



図2 熱画像（溶岩流先端の白色蒸気と高温部）（8月11日撮影）



図3 西之島全景（8月24日撮影）



図4 火砕丘中央の火口縁からの白色噴気（8月24日撮影）

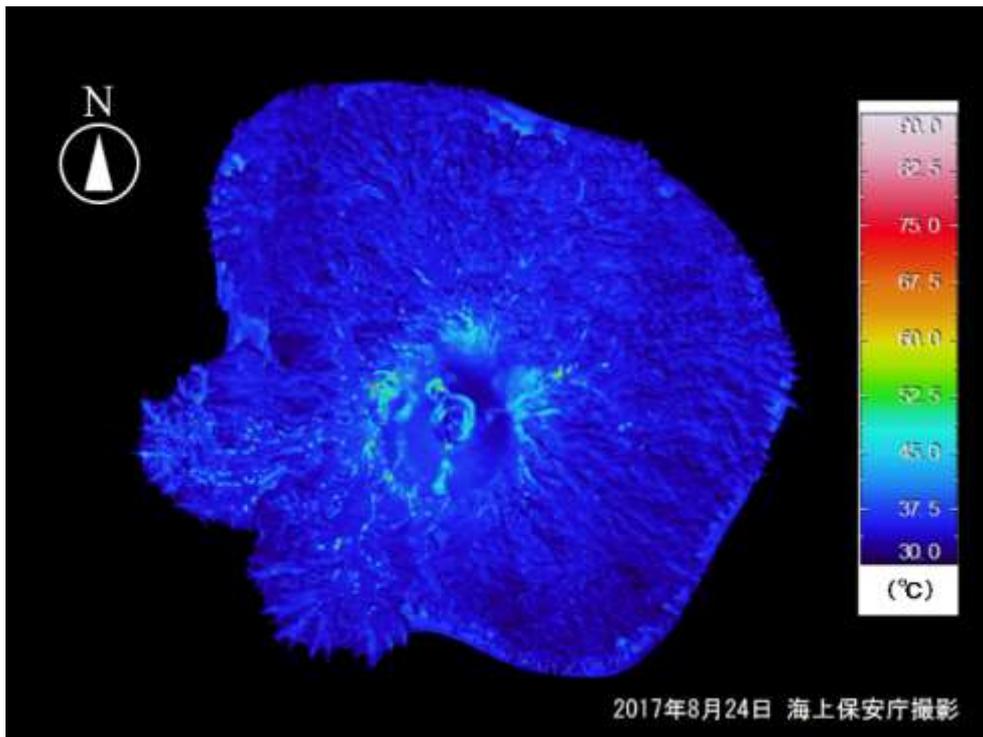


图5 西之島 熱画像 (8月24日撮影)

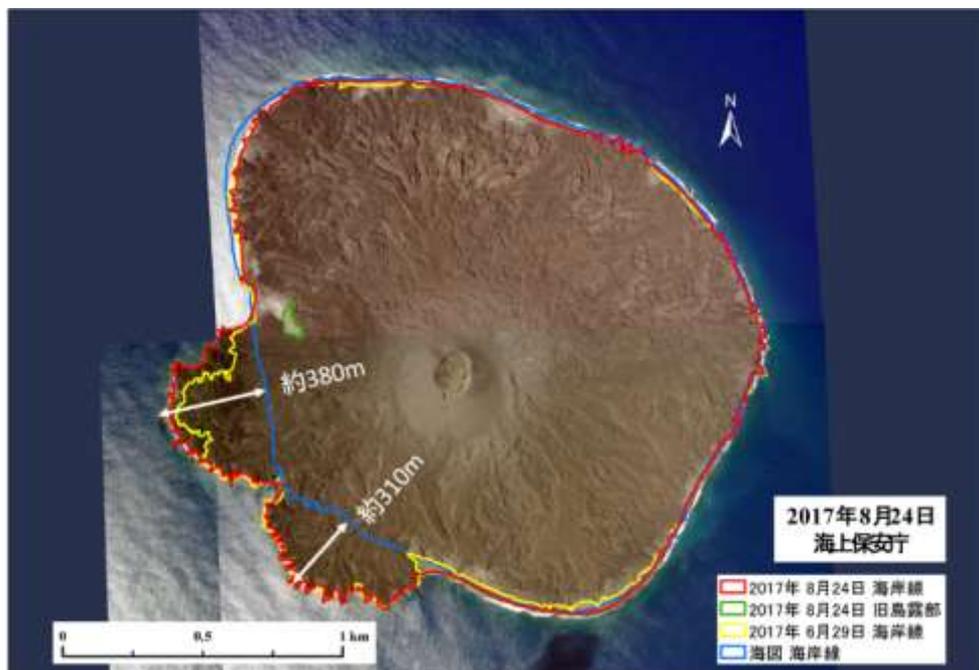


图6 西之島 空中写真 (8月24日撮影)